

マレーシア・イスラーム党(PAS)の 新路線と第12回マレーシア総選挙

塩崎 悠輝 同志社大学大学院・在マレーシア日本大使館

1. はじめに

2008年3月8日に行われた第12回マレーシア総選挙の結果、野党3党は連邦下院及び各州議会において大きく議席を伸ばした。下院選において最も目覚ましい伸びを見せたのは総選挙前の1議席から31議席に躍進した人民公正党(PKR)であったが、28議席を得た民主行動党(DAP、総選挙前は12議席)、そして23議席を得たマレーシア・イスラーム党(PAS、総選挙前は6議席)も大きく下院議席を増やした。さらに、野党3党は、各州の州議会においても議席を伸ばしたが、獲得した州議会議席の合計は、野党3党の中ではPASが最大で83議席、次いでDAPが73議席で、PKRは40議席であった(図1参照)。

図1 第12回総選挙結果¹

	BN	PKR	DAP	PAS
連邦下院	140	31	28	23
州議会	307	40	73	83

総選挙の結果、クランタンとクダールの州議会ではPASが首席大臣を出すことになった。ペラ州議会では、PASの獲得議席はDAP、PKRよりも少なかったものの、首席大臣はPASから出すことになった²。PASの議席数の伸びは、クランタン、クダール、ペラ、スランゴールで特に大きく、トレンガヌ、パハン、連邦直轄区でも議席を伸ばした。

第12回総選挙の結果、与党連合国民戦線(BN)の

議席は、下院において3分の2を割り込み、従来のクランタンに加え、新たに4州の州政権を野党3党に奪われた。比較的新しい政党であり多民族政党を標榜するPKR、華人中心の政党であったDAPに対して、PASは独立前からマレー人有権者を基盤として、統一マレー国民組織(UMNO)とマレー人有権者の支持を分け合ってきた政党である。第12回総選挙は、これら野党3党がいずれも議席を伸ばしたことが大きな特徴であった。PKR、DAPと共にPASも野党3党の一角にあったことが、野党全体の躍進につながり、PASもまた議席を伸ばした。

PASは、1951年、UMNOの宗教部門として設立されたが、1954年に在野イスラーム主義勢力の加入によりUMNOから分離した。当初は民族主義的性格を強く持っていたが、1980年代以降、党の最高意思決定機関としてのウラマー評議会(Majlis Syura Ulama)によるウラマー指導制を確立し、イスラーム主義的性格を強めた。現在の党員数はおよそ90万人である。

PASは一貫してイスラーム国家³の樹立を党是としており、80年代以降は特にその傾向を強めた[Farish 2004][Nasharudin 2001]。

PASは従来から主要な野党の1つであったが、マレーシアの議会においてはそもそも野党は極めて勢力が弱く、PASも下院で27議席を得た1999年総選挙を除けば下院議席が20に達することはなく、最大の地盤であるクランタン及びトレンガヌとクダールの一部以外では議席を得ることが難しかった。その意味では、下院で3分の1以上を占めるに至った野党3

¹ <http://semak.spr.gov.my/spr/>

² ペラ州議会では、PASの獲得した議席はDAP、PKRよりも少なかったが、首席大臣はマレー人でなければならないという州憲法の規定もあり、また、スルタンの意向もあって、PASのムハンマド・ニザール・ジャマルッディーンが首席大臣に就任することになった。一方で、ペラ州政府の閣僚(Exco)は7人が非マレー人、3人がマレー人となった。

³ 近代的な主権国家国民国家の枠組み内でシャリーアを施行する体制のことをいう。中東のムスリム同胞団をはじめとする世界のイスラーム主義運動主流派共通のアジェンダ。

党の躍進の一翼を担い、クダー及びペラやスランゴールにおいても州政権に参加している第12回総選挙後の状況は、PASにとっても新たな局面であるといえる。このような新局面をPASが迎えるに至った背景には、2005年以降PAS指導部がとってきた一連の施策がある。一連の施策とは、従来の支持基盤であるマレー半島部東海岸及び北部に加えて、都市部や非マレー人の有権者の支持を得ることを目的としたものである。

第12回総選挙におけるPASの新路線と選挙結果の関係をしながら、今回の総選挙の特徴とマレーシア政治にどのような変化が起きているかを見ていきたい。

2. 総選挙結果とPAS

下院選において、BNの得票率は51.4%（前回2004年総選挙では62.5%）であった。ただし、半島部においてはBNの得票率は49.8%であった。この結果、半島部においては、与野党の獲得議席はBN85、野党3党80とほぼ拮抗しているのに対して、サバ、サラワクにおいてはDAPが各州で下院1議席ずつを得ているのみであり、BNが議席を減らすことはなかった。総選挙の結果、PASは、連邦下院で23議席（選挙前は6）、各地の州議会で83議席（選挙前は36）を得る躍進を果たし、クランタン、クダー、ペラで首席大臣を出すことになった。PASの議席数の伸びは、クランタン、クダー、ペラ、スランゴールで特に大きく、トレンガヌ、パハン、連邦直轄区でも議席を伸ばした。

半島部においては、有効投票総数のうち与党UMNOは35.5%を得ており、一方野党のPASとPKRは合わせて34.8%を得た。UMNOの獲得した議席は79、PASとPKRのマレー人議員の合計は43人であるとはいえ、マレー人有権者の支持獲得においても与野党は伯仲してきていると見られる。

野党全体の躍進は、まず、インド人及び華人有権者のBNから野党への劇的に大規模なスウィングによるものである。また、マレー人を含めた都市部有権者と若年有権者のスウィングも都市部における野党の躍進につながった。PASもまたこれらの恩恵を受けて、非マレー人人口の多い都市部で議席を伸ばした。インド人、華人の有権者間でUMNOとそれに連なるBN構成諸党に対する反発が高まる状況下で、

PASは、非マレー人有権者の投票を一定引きつけることに成功した。

この結果、華人が最大多数の民族であるペナン州では、都市部華人社会に基盤を持つDAPが狂勝し、マレー人が最大多数ではあるが華人及びインド人も多いスランゴール州とペラ州、クダー州南部等では野党3党が大きく議席を伸ばした。マレー人のスウィングは、クランタン州及びクダー州においてPASが議席を伸ばすには十分であったが、トレンガヌ州政権を奪取するには不十分であった。また、スウィングの度合いは、都市部の特に若年層において大きかったと見られ、PKRがクアラ・ルンプール、スランゴール州等で大躍進し、下院における野党第一党となった。

BNは、各民族を代表する諸政党の連合である。前回総選挙までは、多民族の支持を得ることができたのはほぼBNのみであり、華人に基盤を置くDAPやマレー人に基盤を置くPASが勝利できたのは、全国の小選挙区の中でも華人あるいはマレー人が有権者の80%以上を占める選挙区におおよそ限られていた。また、PKRは前回2004年総選挙では下院1議席しか得ることができなかった。複数民族が混在する民族混合型選挙区ではBNが有利であり、このことによって、BNは安定した多数の議席を確保してきた。マレーシアの総選挙は、与野党の逆転のような急激な変化をもたらすものではないが、BNの結束が確認されることによって、総選挙が国民統合の機能を果たしていると見なされてきたのである[中村2006]。しかし、今回の総選挙の結果は、BNが多民族の支持を得ていないことを示すものであった。UMNOは79議席（選挙前は109議席）へと大きく議席を減らしたが、マレーシア華人協会(MCA)は15議席（選挙前は30議席）と半減し、さらにマレーシア・インド人会議(MIC)は3議席（選挙前は9議席）、マレーシア人民運動党(GERAKAN)は2議席（選挙前は10議席）と壊滅的な打撃を受けた上、両党のコー・ツークン総裁代行とサミー・ベル総裁も落選した。一方で、多民族政党を標榜する野党PKRは、多くの混合型選挙区で勝利し、31議席（選挙前は1議席）へと大躍進した。

このような選挙結果をもたらした原因として、以下のようなことが考えられる。

(1) 11月の2つのデモ

2007年11月にクアラ・ルンプールで数万人規模のデモが2回起こった。野党3党とNGOが中心となった「清廉で公正な選挙のための連合 (*Gabungan Pilihan Raya Bersih dan Adil*, Bersih)」のデモと、BNに批判的なインド人の社会活動家が組織した「ヒンドゥー権利行動隊 (*Hindu Rights Action Force*, Hindraf)」によるデモである。Bersihのデモでは、PASは青年部を中心に数万人の動員を行い、中心的役割を果たした。2007年のGDP実質成長率が6.3%であったことに見られるように、マレーシア経済は総体的に順調であり、アブドゥッラー政権に大きな過ちがあったようには見えない。しかし、これらのデモが起きたことは、アブドゥッラー首相は「指導力が弱く優柔不断な首相」であるというイメージが流布することにつながったと見られる。

(2) アブドゥッラー首相のイメージ

アブドゥッラー首相は就任直後の2004年総選挙において、清新で清廉なイメージを有しており、汚職撲滅等の公約を打ち出し、圧倒的な支持を得た。その後、汚職撲滅が進展することではなく、有権者は指導力を発揮して改革を進めることのできないアブドゥッラー首相に失望したと見られる。

(3) 野党間協力の成立

PKRの実質的指導者であるアンワル・イブラーヒム元副首相のイニシアティヴにより、半島部では野党3党間の立候補者調整が成功し、その結果野党候補が1つの選挙区に複数立候補して共倒れすることがなくなった。アンワル元副首相は野党3党の候補応援のため連日各州を周り、毎日10ヶ所以上で長時間演説した。PASも今回の総選挙では従来のようにイスラーム国家樹立を掲げることなく、スローガンとして「福祉国家」や“PAS for All”を打ち出し、各民族に配慮した公約を掲げた。

(4) 民族問題に関わる要因

デモを指導して国内治安法 (ISA) で拘留されているHindraf指導者らに同情するインド人有権者は多く、野党へ投票することを求めるHindrafの呼びかけは

奏功した。新経済政策 (NEP) とイスラーム化 (Islamization) 政策の下でマレー人をはじめとするブミプトラのみが優遇されることへの不満は、華人、インド人の中で高まり続けている。

(5) 民族問題と関係のない要因

今回の総選挙では、特定民族だけに関わるわけではない経済や社会生活に関わる争点が大きく取り上げられた。食品をはじめとする物価の値上がり、選挙後の政府によるガソリン値上げへの懸念、相変わらずの汚職の蔓延、犯罪の増加等の争点を野党3党が訴え続けてきたことが成果を挙げ、特に都市部におけるPKRの躍進につながったと見られる。

(6) マレーシア社会の変容

携帯電話、インターネットの普及、NGOの増大による市民社会の形成といった要因は、徐々に世論形成に作用しつつあり、野党に有利に作用している。マス・メディアを完全にBNが掌握している一方で、野党はこれらの新しいメディアを積極的に活用している。DAPが著名なブロガーを候補者として擁立したところ大量得票で当選、インターネットで選挙資金集めをするといった新しい現象も見られた。また、選挙前から野党指導者らによるブログ開設が相次いだ。PASも総選挙専用ホームページ⁴を開設し、指導者の多くが選挙前までに自分のブログを開設した。

総選挙の結果をもたらした要因は、必ずしも野党の人気あるいは野党の政策が支持されたということだけではなく、BN及びアブドゥッラー政権の不人気という側面も大きい。有権者の動向はPASのみを利用するものではなく、むしろ最大の受益者は多民族混合型選挙区で目覚ましい勝利を取めたPKRであったといえる。とにかく、野党3党の一翼を担い、有権者の野党への大規模なスウィングの共同受益者となったことで、PASもまた躍進を果たした。

3. PASの新路線と選挙戦

PASに関して、MCAやDAP等の非マレー人を中心とする政党が常に批判するのが、イスラーム国家の

⁴ <http://pru12.pas.org.my/>

樹立を目指しているという点である。一方で、イスラーム国家の樹立を目指しているということが、PASがムスリム有権者に対して、PASのイスラーム的正当性がUMNOに優ることを主張する際の根拠とされている。

イスラーム国家(マレー語では*Negara Islam*、アラビア語では*Daulat Islamiyah*)はPASの党是であり、PAS党员が政治に参加する際の主要な理由であり、目標である。イスラーム国家とは、既存の近代的な主権国家国民国家の枠組み内でシャリーア(イスラーム法)を施行するために近代に考案された体制であり、アラブ諸国のムスリム同胞団、パキスタンのジャマアテ・イスラミー等イスラーム世界各地におけるイスラーム主義運動主流派に共通のアジェンダである。イスラーム国家において施行されるとされる政策のうち、フドゥード(シャリーアにおける法定刑、窃盗に対する手の切断、婚外性交渉に対する石打ち刑等の規定を含む)、異教徒に対するジズヤ(人頭税)及びハラージュ(地租)の導入[Parti Islam Se-Malaysia 2003]は、BN内の非マレー人政党のみならず、野党のDAPからも強い反発を受けている。

PAS支持者は、イスラーム国家の実現において、シャリーアの施行というムスリムの政府の義務が行われることのみならず、道徳の退廃が正されることや治安の向上、公正な統治による人民のための福祉を期待している。PASは創設以来、イスラーム学校(*sekolah agama*及び*pondok*)の教師が党組織の中核であり、ウラマーやイスラーム教育従事者らは、イスラームが基礎となる社会を実現する世直しをPASに託している。一方で、ウラマーやイスラーム教育従事者は、現代マレーシアにおいては有権者の中で決して大きな勢力とは言えず、イスラーム教育従事者のみに依存しては、1人の議員を当選させることすら難しい。PAS指導者も、欧米等で学んだ専門職経験者が増えている。

イスラーム国家樹立を目指すPASの組織のあり方の特徴づけるのが、「ウラマーの指導」(*Pimpinan Ulama*)である。1980年代、それまでのムハンマド・アスリ・ムグラマレー・ナショナリスト指導者に代わって、ニク・アジズ、ファジル・ヌール、アブドゥル・ハディ・アワンらウラマー(イスラーム学者)

が台頭し、PASがイスラーム国家樹立を目指すムスリム同胞団型の組織に変容していく過程で「ウラマーの指導」が確立された。PASには、党総裁以下の中央委員会の他に最高指導者(*Mursyid ul'Am*、現在はニク・アジズが務める。)を議長とする最高意思決定機関としてのウラマー評議会が存在する。この党組織のあり方は、大統領と内閣の他に最高指導者と護憲評議会が存在するイラン・イスラーム共和国の体制に類似している。「ウラマーの指導」は、ニク・アジズが首席大臣を務め、今なおイスラーム学校が一定の社会的影響力を持つクランタン州や党組織の中核であるイスラーム教育従事者の間で重視されている。

PASは、2003年10月に「イスラーム国家文書(*Dokumen Negara Islam*)」を発表した。「イスラーム国家文書」は、PASの目指すイスラーム国家像の大略を記したもので、多民族共存に配慮する、フドゥードはムスリムのみに適用する等、非ムスリム有権者の支持を失わないことを意図した内容であったが、2004年3月の第11回総選挙においてPASが大きく議席を減らす(下院では、選挙前の27議席から7議席に減り、トレンガヌ州政権を失った。)一因となったと見られる。

PASは、2005年の年次党大会(*Muktamar*)において党人事改選を行い、新たに選出されたナシャルッディーン・マット・イーサー副総裁はPASの“Re-branding”を行っていく方針を表明し、その後、非ムスリム・非マレー人有権者の支持を得るための一連の施策がとられた。PASでは党员がムスリムのみであると規定されているが、非ムスリムの支持者を組織するためにPASサポーターズ・クラブ(*Kelab Penyokong PAS*)が結成された。また、中国語の新聞「人民時事(*Renmin Shi Shi*)」を発刊した。ナシャルッディーン副総裁は、イスラーム国家をはじめとするイスラーム関連の政策よりも、経済・福祉政策を打ち出すことに務め、積極的にメディアに登場して、PASが総合的な政策を持つ「普通の政党」であることを強調してきた。

2008年の第12回総選挙においても、福祉国家実現を主な主張とするマニフェストをマレー語、英語、華語、タミル語で作成した[Parti Islam Se-Malaysia 2008]。主なスローガンとして、PASが民族・宗教を

問わず全ての民族の利益のために貢献することを唱えて“PAS for All”を掲げ、Hindraf 支持者のスローガンである「マッカル・サクティ (*Makkal Sakti*、タミル語で『ピープル・パワー』の意)」を選挙運動に取り入れた。立候補者数を抑制(下院66、州議会235)して、目標をクランタン州の死守に限定し、PASが総選挙で勝利することにより一挙にイスラーム国家樹立を図るという懸念を非マレー人が持つことを避けた。

第12回総選挙でPASが強調した争点は、経済問題や治安問題、福祉政策等、民族に関係なく、特に都市部の有権者が関心を持つ問題であった。例えば女性候補ロロ・ムハンマド・ガザーリーを立ててUMNO候補に勝利した連邦直轄区クアラ・ルンプールの下院選ティティワンサ選挙区では、選挙後の石油燃料値上げ、食品等物価の値上がり、犯罪増加、汚職、カンポン・バル再開発問題等がロロ候補によって訴えられた。一方で、クランタン州の下院選バチョク選挙区のような農村部の選挙区では、PASの候補者であったナシャルッディーン副総裁は、ニク・アジズ首席大臣(Tuan Guru Nik Aziz)の指導による州政権の存続、イスラームを伴った発展(*Membangun bersama Islam*)等の争点を汚職や物価値上がりの問題と共に強調した[Badan Perhubungan PAS Negeri Kelantan 2008]。クランタン州は、第12回総選挙でUMNOが最も力を注いだ州であり、数々の大規模プロジェクトをマニフェスト[Barisan Nasional Negeri Kelantan 2008]で公約し、有権者にしきりに現金を配布したが、前回総選挙と比べて大きく議席を減らす結果に終わった。

2005年以降ナシャルッディーンPAS副総裁が打ち出したPASの“Re・branding”は、PAS総裁を務めたファジル・ヌールがとった路線と共通する点が多い。ナシャルッディーンは、1999年から2002年までファジル・ヌール総裁のもとで幹事長を務めた。両者の路線で共通するのは以下のような点である。

(1) 非マレー人対策

ファジル・ヌールがPAS総裁であった時、PASが州政権を奪還したクランタン州において、華人住民の要望を聴取するために、CCC (Chinese Consultative Council) が組織された。ナシャルッディーンは、華

人のみならず非ムスリム全般の参加するPASサポーターズ・クラブを結成した。

(2) 野党連合の形成

ファジル・ヌールは、政権交代を狙いする野党連合の形成に積極的に参加し、46年精神党(*Semangat 46*)とPASの連合である「ウンマ連合隊(*Angkatan Perpaduan Umma*、APU)」及びPKR(当時は国民公正党)、DAP、PAS等の連合である「オルタナティブ戦線(*Barisan Alternatif*、BA)」の結成において主要な役割を果たした。第12回総選挙後のPASは、PKR、DAPと共に新たな野党連合「人民の協約(*Pakatan Rakyat*)」を形成した。

(3) 特定課題に特化した共闘の組織化

ファジル・ヌールは、国内治安法 (ISA) 反対運動に積極的に参加し、ISA 廃止運動 (*Gerakan Mansuhkan ISA*、GMI) は野党諸党のみならず、数多くのNGOを巻き込み、PASの支持層の裾野を広げることにもつながった。2005年以降のPASは、総選挙における不正の阻止と選挙制度改革を訴えて他の野党諸党やNGOと連携し、2007年11月の「清廉で公正な選挙のための連合 (*Bersih*)」によるデモに結実した。

現在のPASでは、これらの路線と80年代以来の「イスラーム国家樹立」、「ウラマーの指導」の原則が混在しているが、矛盾するものであるとはPAS内部ではとらえられていない。1990年から2002年のファジル・ヌール死去に至るまでにとられた路線と2005年ナシャルッディーン副総裁就任後にとられた路線には共通点が多く、2002年から2005年に至る期間にはイスラーム国家樹立の原則が強調された。2005年から2007年にかけてハルーン・タイブらウラマー部 (*Dewan Ulama*) の一部がナシャルッディーンらの路線に反発していたが、ニク・アジズはウラマーの指導の原則に立ちつつファジル・ヌール＝ナシャルッディーンの路線を支持してきた。イスラーム国家樹立の原則を常に強調するハディ・アワンも同様である。イスラーム国家樹立の原則は、PAS全体で共有されており、ファジル・ヌール＝ナシャルッディーンの路線の是非は、イスラーム国家樹立に至るまでのプロセスに関する方針の違いに過ぎないといえる。

4. 結論

第12回総選挙後、アンワル元副首相は、マレーシア政治が民族に基づく (race-based) 政治から特定の民族だけに関わるのではない課題に基づく (issue-based) 政治へと移行しつつあると述べており、マレー人の首位性 (*Ketuanan Melayu*) に代わる人民の首位性 (*Ketuanan Rakyat*) を確立することを唱えている [Asia Inc 2008: 33]。

第12回総選挙においてインド人、華人の有権者間でUMNOとそれに連なるBN構成諸党に対する反発が高まる状況下で、PASの新路線は、非マレー人有権者の投票を一定引きつけることに成功した。また、PASは民族問題・宗教問題と関係のない経済問題、治安問題に焦点を当てることで、特に都市部において支持者を増やし、マレー人有権者からも一定の支持を増やすことに成功した。アブドゥッラー首相の不人気・指導力不足や都市化の進展、インターネットの普及、若年有権者増加といった背景もPASを利した。前回2004年総選挙の時のようにPASが「過激派」のイメージを持たれることも減少した。PASに対してインド人、華人及び都市部マレー人からの支持が定着し、民族・宗教問題ではなく経済・社会問題への取り組みによって支持を得るようになれば、PASにとっても大きな変化である。

1980年代以降UMNOが進めてきた「イスラーム化 (Islamization)」政策は、行政にイスラーム的諸価値を反映させるとされるものであったが、連邦政府によるイスラーム行政の拡大、集権化、制度化という側面が強かった⁵。また、「イスラーム化」政策の主な受益者はマレー人及びブミプトラであり、「イスラーム化」政策は、NEPを補完し、マレー人の連邦とUMNOへの統合を進めるという側面もあった。従来は民間で行われてきた教育を含むイスラーム諸活

動を政府と行政に取り込み、連邦政府の方針に沿ったものにしてきた、というのがマレーシアの「穏健なイスラーム」と称されるものの実態である。

PASは、UMNOに対してイスラーム的正当性を競い、マレー人からの支持を競い合う立場にあって、イスラーム国家の即時樹立を唱えつつも、UMNOによる「イスラーム化」政策には本質的には反対ではなく、イスラーム国家樹立を可能とする環境を整えるための準備段階と捉えてきた。PASは、UMNOに対してより急進的な「イスラーム化」政策を要求することはあっても、「イスラーム化」政策そのものに反対することはなかったのである。しかし、非マレー人が、「イスラーム化」政策が将来非ムスリムをマレーシアの傍流としてしまい、「庇護民 (ズインミー) 化 (Zimminization)」をもたらすことを警戒する当今、PASがUMNO同様の「イスラーム化」を追求するのであれば、恒久的に非マレー人の支持を得ることは困難であろう。

2005年以降、PASは「イスラーム国家樹立」の目標を積極的に掲げることを控えて、非マレー人・非ムスリムの支持を得ることに努めてきた。今回の総選挙においても経済や治安といった生活者意識に訴える争点を強調した。PASの新路線は、マレーシア政治の新しい変化にPASが積極的に参加することを可能にした。今後、PASが野党連合の一員として、全ての民族から支持を得る「普通の政党」、国民党となるためには、2005年以降に打ち出してきた新路線を継続・発展させていく必要があるであろう。また、PASがクダール、ペラといった州の行政において成果を挙げうるかどうか今後PASがより広い層の支持を得られるかどうかに関わるであろう。

参考文献

- Badan Perhubungan PAS Negeri Kelantan (2008) *Program PAS Kelantan Pilihan Raya Umum 2008: Membangun Bersama Islam, Menerajui Perubahan Mencapai Keberkatan*. Kota Bharu: Pustarek.
- Barisan Nasional Negeri Kelantan (2008) *Manifesto: Kelantan Baru – Kelantan Maju 2008*. Kota Bharu: Barisan Nasional Negeri Kelantan.

⁵ UMNO によるイスラーム化政策というのは、PAS の要求するシャリーアで統治者の義務とされる事項ではなく、その前段階として、教育 (公教育における宗教教育)、金融 (イスラーム銀行・保険)、流通 (ハラール認可制度)、JAKIM (マレーシア・イスラーム発展庁) への予算増額、IKIM (マレーシア・イスラーム理解研究所)、YADIM (マレーシア・イスラーム宣教財団)、イスラーム大学設立、マス・メディアにおけるイスラームに関するコンテンツの増加等であった。

Farish Noor (2004) *Islam Embedded: The Historical Development of the Pan-Malaysian Islamic Party: PAS (1951-2003)*. Kuala Lumpur: Malaysian Sociological Research Institute.

Nasharudin Mat Isa (2001) *The Islamic Party of Malaysia (PAS): Ideology, Policy, Struggle and Vision Towards The New Millennium*. Kuala Lumpur: PAS.

Parti Islam Se-Malaysia. (2008) *Manifesto Parti Islam Se-Malaysia (PAS): Kerajaan Beramanah, Adil dan Bersih, Menuju Negara Kebajikan*. Kuala Lumpur: PAS.

Parti Islam Se-Malaysia. (2003) *Negara Islam*. Bangi: PAS.

塩崎悠輝 (2007) 「マレーシアのマレー人ムスリム社会における公共圏の形成とイスラーム主義運動」『一神教学際研究 (JISMOR)』3。

中村正志 (2006) 「分断社会の政治統合：マレーシアにおける連邦議会下院選挙の統合機能」『アジア経済』47(1)。

雑誌

ASIA INC. May-June, 2008. No.27.